

ミニスロージューサー

品番：SJ-001

家庭用



もくじ

| | |
|----------------|----|
| 安全上のご注意..... | 2 |
| 使用上のご注意..... | 4 |
| 各部の名称..... | 6 |
| ご使用前に..... | 8 |
| 使い方..... | 13 |
| お手入れのしかた..... | 14 |
| 故障かなと思ったら..... | 16 |
| 製品仕様..... | 18 |
| 保証書..... | 18 |

ユーザーズガイド

このたびは本製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
本製品をお使いになる前に必ず本書をお読みいただき、正しくお使いください。
本書は読み終わったあと、大切に保管してください。

安全上のご注意

- 必ずお守りください（安全にお使いいただくために）

本書では、お使いになる方や人々への危害、財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただきたい事項を次のように表示しています。

警告 この表示を守らずに、誤った使いかたをすると、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容を示しています。

注意 この表示を守らずに、誤った使いかたをすると、「軽傷を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容を示しています。

- 次の絵文字で、お守りいただきたい内容を説明しています。

禁止 してはいけない「禁止」内容です。

強制 必ず実行していただきたい「強制」内容です。

■電源プラグ・電源コードについて

警告

禁止 ぬれた手で、電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因となります。

電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、重いものをのせたり、挟み込んだりしない。
火災・感電の原因となります。

電源コードや電源プラグが傷んでいるとき、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない。
感電・ショート・火災の原因となります。

強制 交流 100 V・定格 15A のコンセントを単独で使用する。
他の器具と併用するとコンセントが異常発熱して発火することがあります。

電源プラグはコンセントの奥までしっかり差し込む。
感電・ショート・発火の原因となります。

電源プラグにホコリが付着している場合は拭き取る。
ホコリが付着したまま電源プラグを差し込むと、ショート・火災の原因となります。

電源プラグを抜くときは必ず電源プラグを持って引き抜く。
感電やショートの原因となります。

注意

禁止 使用后、電源コードを本体に巻き付けない。
電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。

強制 お手入れ時や使用していないとき、保管時は、電源プラグをコンセントからはずす。
絶縁劣化による感電・漏電・火災の原因となります。

注意

強制 部品の取り付け、取りはずし時は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。
感電・けがの原因となります。

強制 電源コードはすべてほどいて使用する。
感電やショートの原因となります。

■本体の取り扱いについて

警告

禁止 分解・改造はしない。
火災・感電・けがの原因となります。
本体にピンや針金などの金属物など、異物を入れない。
異常動作してけが・感電・故障の原因となります。

子供だけで使わせたり、幼児の手の届くところでは使用したりしない。
感電・けがの原因となります。

本体を水につけたり、水をかけたりしてぬらさない。
感電やショートの原因となります。

禁止 投入口に指・スプーンなどブレンダーと食材以外のものを入れない。
けが・故障の原因となります。

異常時（こげ臭い、発煙など）は電源プラグを抜き、使用しない。
火災・感電の原因となります。

調理以外の目的に使用しない。
けが・故障の原因となります。

強制 運転中は、髪の毛、ネクタイ、ネックレス、スカーフなどを投入口に近づけない。
巻き込みによるけがや故障の原因となります。

注意

禁止 本製品は一般家庭用のため業務用として使用しない。
火災・故障の原因となります。

コンセントに接続しているときは、本製品のそばを離れない。
思わぬ事故の原因となります。

破損や変形があるときは絶対に使用しない。
感電・けが・故障の原因となります。

禁止 落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えない。
故障・破損・けが・感電の原因となります。

運転中は注ぎ口に箸やスプーン、指などを入れない。
けが・故障の原因となります。

安全上のご注意 (続き)



- 専用部品以外は使用しない。
故障・けがの原因となります。

使用中は本体を移動させない。
故障・けがの原因となります。

本製品は、不安定・滑りやすい場所や水気、振動に弱いところで使用しない。
けが・故障の原因となります。

タンクふたやタンクを持って本体を移動させない。

落下によるけがの原因となります。
移動させるときは、電源プラグを抜き、タンクと本体を分けて持ってください。

- 運転中は、タンクふたを開けない。
けがの原因となります。

● 使用中に本体が異常に熱くなったり、異臭がしたりした場合は、ただちに使用を中止し、電源プラグを抜き、30分以上休ませたあと、再度使用する。
発火・故障の原因となります。

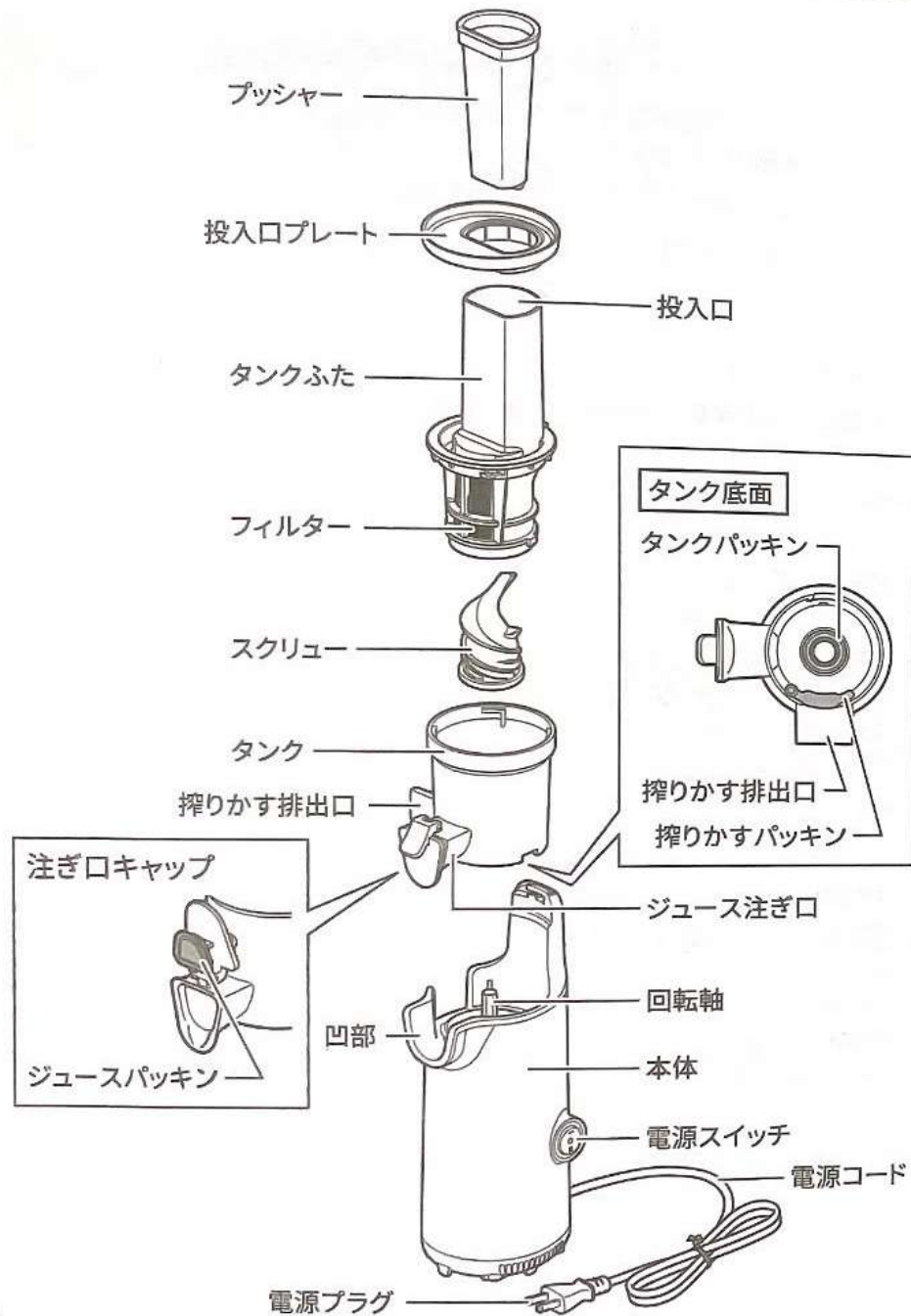
使用上のご注意

- お手入れをするときは、研磨剤を含む洗剤やシンナー、ベンジン、アルコール、磨き粉、金属タワシなどは絶対に使用しないでください。
傷がついたり、変色・変形・故障の原因となります。
- 温度の高いところや火気のあるところ、直射日光が当たるところでは使用・保管しないでください。
故障・変形の原因となります。
- 1回の使用時間の合計は、定格時間（15分）以内にしてください。15分を超えてご使用になった場合は30分以上休ませたあと、再度使用してください。
故障の原因となります。
- 投入口に食材を落とし込む際、プッシャー以外を使用しないでください。
けが・故障の原因となります。
- 柿、梅、桃のように種が硬い果実は、必ず種を除去してから使用してください。
破損・故障の原因となります。

使用上のご注意 (続き)

- 調理できない食材を使わないでください。
破損・故障の原因となります。調理できない食材は11ページを参照ください。
- 穀物粉碎用として使用しないでください。
破損・故障の原因となります。
- 一度搾汁した搾りかすは再搾汁しないでください。
- 搾汁したジュースは長期保存せず、なるべく早めにお召し上がりください。
- ジュースカップ・搾りかすカップにジュースや搾りかすを入れた状態で保存しないでください。
変色の原因となります。
- 30秒以上の空運転（食材がないまま運転）はしないでください。
破損・故障の原因となります。
- ぬれた手で使用・操作しないでください。
ショート・感電、故障の原因となります。
- 調理後の部品は十分にお手入れして乾燥させてください。
部品をそのままにしておくと、カビやサビなどの原因となります。
- 水洗いできる部分に、60℃以上のお湯をかけたり、食器洗浄機・食器乾燥機などを使用したりしないでください。
変色・変形・劣化や破損などの原因となります。
- 部品を付けずに電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
破損・故障の原因となります。
- 屋外で使用しないでください。
故障の原因となります。
- 食材は、少しずつ間隔をあけて投入してください。間隔をあけずに投入すると、以下の原因となります。
 - ・食材がタンク内に溜まり、ジュースが出てきません。
 - ・タンクふたが取りはずせなかったり、タンクが本体からはずれにくくなります。
 - ・タンクに無理な力がかかり、ヒビや割れが発生します。

各部の名称



付属品

●ジュースカップ



最大目盛約 500mL

●搾りかすカップ



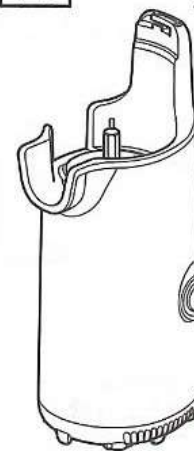
●洗浄用ブラシ

ジュース注ぎ口、搾りかす排出口のかす詰まりを取るときに使う

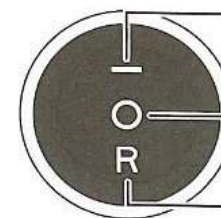


ブラシ部分
フィルター洗い専用

本体



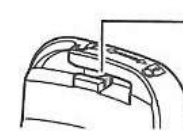
■電源スイッチの使い方



スタート
運転を開始するとき

停止
運転を止めるとき

逆転
逆回転させるとき
離すと運転を停止します



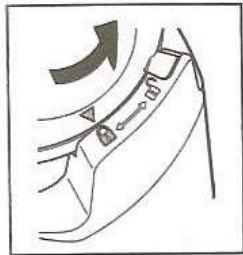
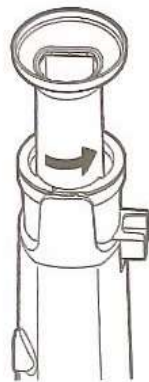
保護スイッチ
安全装置です。
各部品を正しく取り付けないと、運転しません

ご使用の前に

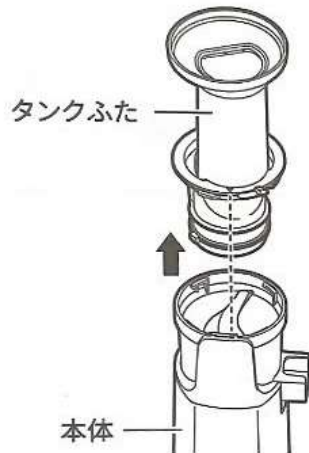
はじめてご使用になるとき、または長時間ご使用していなかったときは

本体以外（プッシャー・投入口プレート・タンクふた・スクリュー・タンク・ジュースカップ・搾りかすカップ）をすべて水洗いして、乾燥させてからご使用ください。

①タンクふたの「▼マーク」を本体の「▲マーク」に合うまで回してロックを解除します。



②本体からタンクふたをはずします。



注意

本体は水につけることができません。本体外側は洗わないでください。
感電・ショート・火災の原因となります。

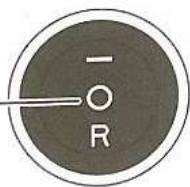
お願い

水洗いできる部品は、60℃以上のお湯をかけたり、食器洗浄機・食器乾燥機など使用しないでください。
変色・変形・劣化や破損などの原因となります。

本体を安定した水平な場所に置きます。

- 電源プラグがコンセントから抜かれていることを確認してください。
- 設置前に電源スイッチを「O」（停止）にしておいてください。

停止



組み立てかた

1 タンクに各パッキンをしっかり取り付けます。（購入時は取り付けられています。）

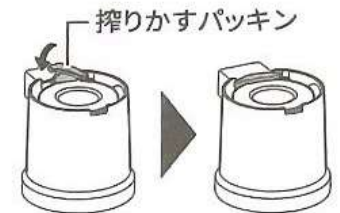
各パッキンが正しく取り付けられていなかったり、差し込みが不十分だと、うまく搾れなかったり、ジュースが漏れたりするのでご注意ください。

●タンクパッキン

タンクの中央に、上からしっかりはめ込んでください。

●搾りかすパッキン（タンク底面）

図のように浮きがないようにしっかり押し込んでください。



●ジュースパッキン

注ぎ口キャップ中央の突起部分に、図の向きでかぶせます。



2 タンクを本体(回転軸)にセットします。

ジュース注ぎ口と本体の凹部を合わせるようにのせてください。



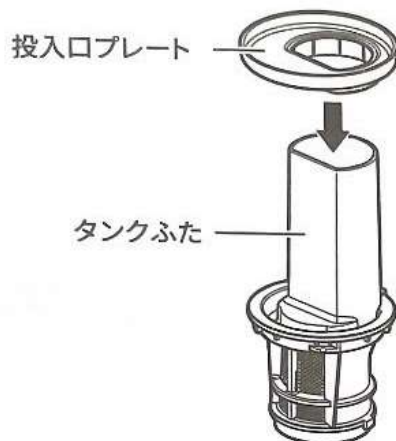
ご使用の前に (続き)

- 3 タンクの中央にスクリューを取り付けます。



本体の回転軸にスクリューをしっかり奥まで押し込んでください。差し込みが不十分だと、タンクふたが閉まりません。





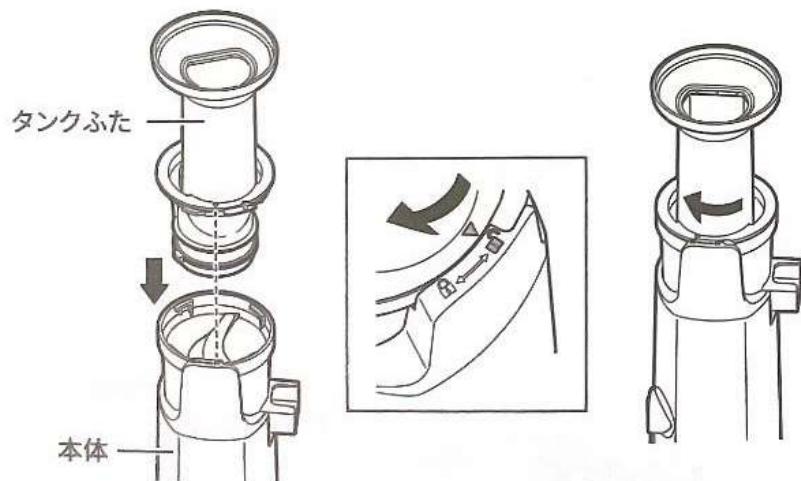
- 4 投入口プレートをタンクふたに取り付けます。



- 5 タンクふたを取り付けます。

①本体の「マーク」とタンクふたの「マーク」を合わせるようにのせます。

②タンクふたの「マーク」を本体の「マーク」に合うまで回してロックします。



タンクふたを正しく取り付けしていないと、電源が入りません。

調理できない食材

下記の食材を入れると、破損や故障の原因となります。

- 氷 ● 冷凍した食材
- 粘り気の強い食材 (山いも、長いも、とろろいもなど)
- 魚・肉類 ● 酒・サラダ油などの食用油
- 乾物 (大豆などの豆類・穀類など)
※豆類は浸水し、加熱してやわらかくしてから液体と一緒にに入れて、ご使用ください。
- 固いもの (生のさつまいも・生のかぼちゃ・とうもろこしの芯・パイナップルの芯など)
- 固く大きな種 (桃の種・マンゴーの種など)
- 固い種が完全に取り除けないもの
- 油分の多いもの (ごま・くるみ・ピーナッツなど)
- 熱い食材
※ 60°C以下に冷まして、ご使用ください。

食材の下準備

| | | |
|---------------|------------------------------|---|
| 柑橘類 | レモン・オレンジ・グレープフルーツなど | 外皮をむき、投入口に入る大きさに切ってください。 |
| 皮が厚い果物類 | メロン・パイナップルなど | 皮をむき、果肉を投入口に入る大きさに切ってください。 |
| 種のある果物・ぶどう類 | ぶどう・リンゴ・桃・マンゴーなど | 噛みきれない固さの種、桃の種のような大きい種のある果物は、必ず種を取り除き、果肉だけを投入口に入れられる大きさに切ってください。ぶどうは果軸から1つずつ取ってから、きれいに洗い、そのままご使用ください。(種や皮を取り除く必要はありません) |
| 果肉がやわらかい野菜・果物 | イチゴ・ベリー類・トマト・ミニトマト・キウイフルーツなど | 投入口に入る大きさに切ってください。ヘタがある食材は取り除いてください。 |
| 根菜類 | にんじん・大根・ごぼうなど | 水洗い時、土、異物をしっかりと洗い流してください。ヘタや葉を取り、長さ5cm以下、2~3cm角の棒状に切ってください。 |
| 葉物類 | ケール・小松菜・ホウレン草・セリ・セロリ・白菜など | 葉物野菜に含まれる繊維はかたく長いため、繊維を断ち切るよう3~4cm程度の長さに切ってください。 |
| 豆類 | 大豆など | 浸水し、加熱してやわらかくしてから液体と一緒にに入れて、ご使用ください。 |

ご使用の前に (続き)

ポイント

- 食材によっては、
 - ・搾りかすがタンク内に残ることがあります。
 - ・ジュースが分離することがあります。
- 食材の鮮度や収穫時期によって、ジュースの味や口あたり、量は変わります。
- 搾りかすがジュースに混入することがあります。気になる場合は、こしてからお召し上がりください。特に固い食材などは「食材の下準備」(11 ページ参照)に記載しているサイズより大きいと搾りかすの混入が増える場合があります。
- 食材によっては、泡立つことがあります。気になる場合は、スプーンなどで取り除いてください。
- 食材は少しずつ間隔をあけて投入してください。一度に多く入れすぎると、詰まりの原因となります。
- パイナップルなど芯のあるものは、必ず芯を取り除いてください。
- トマトの種類によっては、ジュースが出にくい場合があります。
- でんぷんを多く含む食材 (ゆでた豆・さつまいも・じゃがいも・かぼちゃなど) やバナナなどは水分が少ないため、液体と一緒に投入口に入れてください。液体と一緒に投入しないと、うまくジュースになりません。
- にんじんなど繊維の多いものは、水分が少なく、搾りかすが多く出ます。
- バナナなど水分の少ないものは、果肉成分が搾りかすの方に多く含まれることがあります。
- 葉物類を搾るときは、水分の多い果実と組み合わせると搾りやすくなります。少しずつ交互に投入してください。
- 葉と茎のある野菜は、葉と茎を少しずつ交互に投入してください。
- 小松菜やキャベツなどの葉物類や薄切りにした食材は、スクリューとタンクの隙間に入り込み、うまく搾れない場合があります。その場合は「逆回転の操作」を行ってください。
- キャベツやケールなど葉の芯が固いものは、運転中に大きな音がする場合があります。故障ではありません。
- 小さな種のあるものは、そのまま果肉と一緒に投入できます。大きく固い種 (桃など) は、取り除いてください。
- 小さな種のあるものは「パチパチ」という音がする場合があります。故障ではありません。

注意

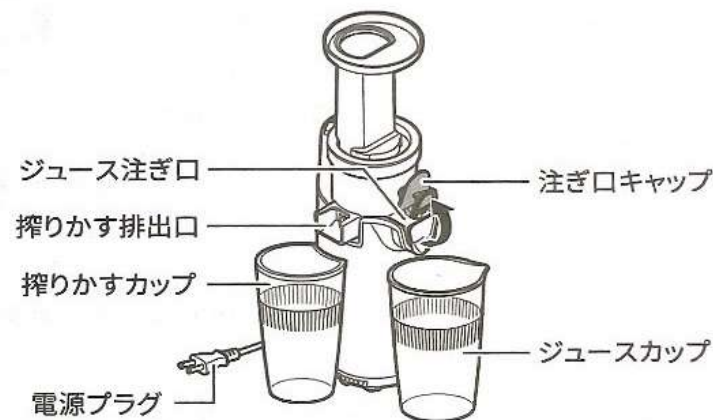
- フィルターのメッシュが詰まったり、トマトやオレンジの薄皮などがフィルターに張りつくと、出来上がり量が少なくなります。十分に搾れなくなってきたら、お手入れしてください。
- 食材を投入した際やタンクふたを取りはずすときに、果汁などが飛び散ることがありますのでご注意ください。
- 繊維の多いものは、かすが詰まって出にくくなる場合があります。タンク内にかすを溜めすぎた場合は、電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜き、食材を取り除いてお手入れしてください。

使い方

注意

- 調理できない食材を使わないでください。(11 ページ参照) 破損・故障の原因となります。
- 食材を一気に押し込まないでください。プッシャーを強く押しすぎないでください。破損・故障の原因となります。
- 1 回の使用時間の合計は定格時間 (15 分) 以内にしてください。15 分を超えてご使用になった場合は 30 分以上休ませたあと、再度使用してください。故障の原因となります。

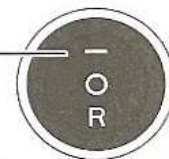
- 1 本体に各部を取り付け (9~10 ページ参照)、ジュースカップと搾りかすカップをセットし、注ぎ口キャップを開きます。



- 2 電源スイッチが「O」(停止)の位置になっていることを確認し、電源プラグをコンセントに差し込みます。「O」の位置になっていないと突然動きだし、けがの原因となります。
- 3 電源スイッチの「-」(スタート)を押します。

運転を開始し、スクリューが回りはじめます。
※タンクふたが本体に正しく取り付けられていないと、安全装置により運転しません。

スタート

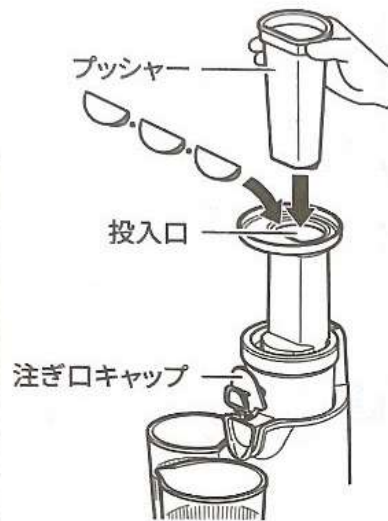


使い方 (続き)

- 4 食材は少しずつ、投入口に入れます。
間隔をあけて投入してください。
食材がタンクの半分まで減ってから次の食材を投入してください。

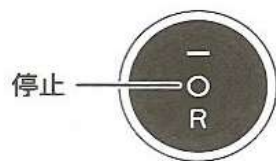
ポイント

- 一度に多く入れてしまうと食材が詰まり、運転が止まります。また、タンクふたが取りはずせなかったり、本体からタンクをはずせなくなったりします。
- プッシャーはスムーズに投入しにくい食材を落とし込むときにお使いください。多くの量を押し込むためのものではありません。
- 食材が途中で詰まったり、空回りしているときは、「R」(逆転)を押し、数秒間逆回転させてください。



- 5 電源スイッチを「O」(停止)の位置に合わせて運転を止めます。

ジュースが落ちきってから、注ぎ口キャップを閉め、ジュースカップを取り出してください。



- 6 電源プラグをコンセントから抜き、お手入れをします。
使用後はなるべく早くお手入れをしてください。

お手入れのしかた

使い終わったら、お手入れをしてください。



注意

- お手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
ショート・感電・火災の原因となります。
- 本体に直接水をかけたり、水に沈めたりしないでください。
ショート・感電・火災の原因となります。

お手入れのしかた (続き)

お願い

- 研磨剤を含む洗剤やシンナー、ベンジン、アルコール、磨き粉、金属タワシなどを使用しないでください。
傷がついたり、変色したりする原因となります。
- 水洗いできる部分は、60℃以上のお湯をかけたり、食器洗浄機・食器乾燥機などを使用したりしないでください。
変色・変形・劣化や破損などの原因となります。

通常のお手入れ

本体

汚れたときは湿らせた布で拭きます。
長時間汚れたままにしておくと、汚れが取れなくなることがあります。



注意

回転軸周辺・電源スイッチ
スプレー式の洗剤を直接かけたり、水分を多く含んだ布で拭かないでください。
液が浸透し、故障の原因となります。



タンクふた・フィルター

柔らかなスポンジや付属の洗浄用ブラシに、台所用洗剤をうすめた水を含ませて洗います。
洗浄後は、流水で洗剤を流した後、乾いた布で水分を拭き取ってください。

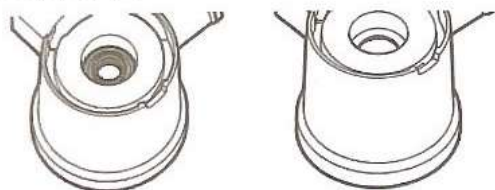
プッシャー・投入口プレート・スクリュー・タンク・搾りかすカップ・ジュースカップ

- 柔らかなスポンジに、食器用洗剤をうすめた水を含ませて洗います。
- にんじん、葉物類の色素が部品・付属品に付着して変色することがあります。
使用後は早めにお手入れください。
 - 洗浄後は、流水で洗剤を流した後、乾いた布で水分を拭き取ってください。
 - 汚れはそのままにしておくと、取れなくなることがあります。
 - 各パッキンは外して洗ってください。

お手入れのしかた (続き)

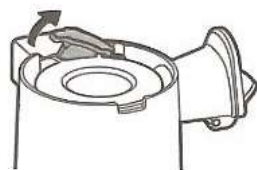
■ パッキンの取りはずしかた

タンクパッキン



タンクを裏返し、タンクパッキンを押しはずします。

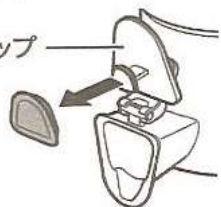
搾りかすパッキン



タンクを裏返し、搾りかすパッキンを引き抜きます。(取りはずせません。)

ジュースパッキン

注ぎ口キャップ



注ぎ口キャップを押さえ、ジュースパッキンを引っぱってはずします。

お願い

- お手入れ後は、各パッキンを取り付けておいてください。
- パッキンは隙間や浮いているところがないようしっかりと取り付けられているか確認してください。液もれの原因となります。

故障かなと思ったら

故障かな?と思ったときは、修理の依頼をされる前に、下記のことをお調べください。

| こんなとき | 原因 | 対処方法 |
|-----------------------------------|---------------------------|--------------------------|
| 動作しない (電源が入らない、 スクリューが回らない) | 電源プラグが正しくコンセントに取り付けられていない | 電源プラグとコンセントの接続を確認してください。 |
| | タンクふたがきちんと取り付けられていない | 正しく組み立てなおしてください。 |

故障かなと思ったら (続き)

| こんなとき | 原因 | 対処方法 | |
|---------------------|----------------------|--|--|
| タンクふたを取りはずすことができない | タンクの中の食材が多すぎる | <ul style="list-style-type: none"> ・「R」(逆転)の操作を行ってください。 ・水を注ぎ、詰まった食材を柔らかくしてください。 | |
| | タンクの中に固い食材が詰まっている | | |
| | タンクに食材が詰まっている | | |
| 部品・付属品などが使用後、変色する | 特定の果物/野菜の自然な色によるものです | そのままご使用ください。 | |
| 運転が途中で止まった | 食材が大きすぎる | <ul style="list-style-type: none"> ・食材を減らしてください。 ・食材を小さく切ってください。 ・「R」(逆転)の操作を行ってください。 ・電源スイッチを切り、食材を取り除いてお手入れしてください。 | |
| | 食材を一度に多く入れすぎた | | |
| | プッシャーで強く押し込みすぎた | | |
| | 食材がスクリューにはさまっている | | |
| | 定格時間 15 分を超えて使っている | | 定格時間 15 分以上使用しないでください。15 分を超えてご使用になった場合は、本体を 30 分以上休ませてください。 |
| | 調理できない食材を使用している | | 調理できない食材を取り除いてください。→ 11 ページ |
| タンクと本体の隙間からジュースが漏れる | 各パッキンが正しく取り付けられていない | パッキンを正しく取り付けてください。 | |
| 運転中に異音がある | 食材がスクリューにはさまっている | 電源スイッチを切り、食材を取り除いてお手入れしてください。 | |
| 搾りかすに水分が多い | フィルターが詰まっている | フィルターを掃除してください。 | |